様式2

都市再生整備計画　事後評価シート
山中温泉地区

令和６年７月

石川県加賀市

様式２－１　評価結果のまとめ

都道府県名	石川県	市町村名	加賀市	地区名	山中温泉地区		面積	28.0ha
交付期間	令和1年度～令和5年度	事後評価実施時期	令和5年度	交付対象事業費	436.6百万円	国費率	46.2%	

1）事業の実施状況

		事業名
当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	【地域生活基盤施設（広場）】菊の湯広場、旧よしのや依緑園別荘庭園、木戸門跡ポケットパーク、【地域生活基盤施設（情報板）】情報案内サイン、【高質空間形成施設（緑化施設等）】散策路、【高質空間形成施設（歩行支援施設・障害者誘導施設）】湯の曲輪公衆トイレ、こおろぎ橋公衆トイレ、【既存建造物活用事業（高次都市施設）】旧よしのや依緑園別荘
	提案事業	【事業活用調査】事業活用調査

		事業名	削除/追加の理由	削除/追加による目標、指標、数値目標への影響
当初計画から削除した事業	基幹事業	【地域生活基盤施設（広場）】木戸門跡ポケットパーク、【高質空間形成施設（歩行支援施設・障害者誘導施設）】湯の曲輪公衆トイレ、【既存建造物活用事業（高次都市施設）】旧よしのや依緑園別荘	木戸門跡ポケットパークは、（仮称）湯の本広場への変更により削除。湯の曲輪公衆トイレは、必要性の見直し、旧よしのや依緑園別荘は、施設の位置付けの見直しから削除	影響なし
	提案事業	―	―	―
新たに追加した事業	基幹事業	【地域生活基盤施設（広場）】（仮称）湯の本広場	木戸門跡ポケットパークの整備に変えて、より効果的な場所に整備するものとし追加	影響なし
	提案事業	【地域創造支援事業】大獅子展示施設	次世代への祭りの継承および観光資源としての魅力向上のため追加	影響なし

交付期間の変更	当　初	令和1年度～令和5年度	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響	―
	変　更	変更なし		

2）都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況

指　標		単位	従前値	基準年度	目標値	目標年度	数　値 モニタリング	数　値 評価値	目標達成度	1年以内の達成見込み		効果発現要因（総合所見）	フォローアップ予定時期
指標1	山中温泉観光入込客数	人／年	464,379	H29	510,000	R5		287,720	×	あり		新型コロナウイルスの影響による入込客数の大幅な減少により目標値には達していないものの、直近3年間で見ると、自粛されていた観光や移動が動き出し顕著な伸びが見られるため、今後は増加が見込める。	―
										なし	●		
指標2	商店街店舗減少率（直近5ヶ年）	%／5年	4	H29	2	R5		0	○	あり		菊の湯周辺のまちなか周遊拠点としての強化と温泉街の中心部と地域資源を結ぶ散策ネットワークの充実により、温泉商店街における店舗の減少を抑えるとともに、新たな店舗の出店も見られる。	―
										なし			
指標3	湯の本町通り通行者数	人／10h	403	H30	600	R5		472	△	あり		新型コロナウイルスの影響による観光客の低迷が影響し、目標値には達していないものの、菊の湯広場、（仮称）湯の本広場、湯の本通り、大獅子展示施設等の菊の湯周辺のまちなか周遊拠点の強化・充実は図られており、新幹線開業後は目標以上の通行量も見られた。	―
										なし	●		

3）その他の数値指標（当初設定した数値目標以外の指標）による効果発現状況

指　標		単位	従前値	基準年度	目標値	目標年度	数　値 モニタリング	数　値 評価値	目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因（総合所見）	フォローアップ予定時期
その他の数値指標1	簡易宿所数	軒	3	H29				10			菊の湯周辺のまちなか周遊拠点としての強化と温泉街の中心部と地域資源を結ぶ散策ネットワークの充実により、観光需要の回復への期待が高まり、インバウンドや長期滞在（テレワーク、ワーケーションなど）にも対応できるような温泉地の新しい宿泊スタイルを提供するゲストハウス等の簡易宿所が増加した。	―

4）定性的な効果発現状況

・湯の本商店振興会等による道路修景整備を契機としたまちづくり活動が増えている。

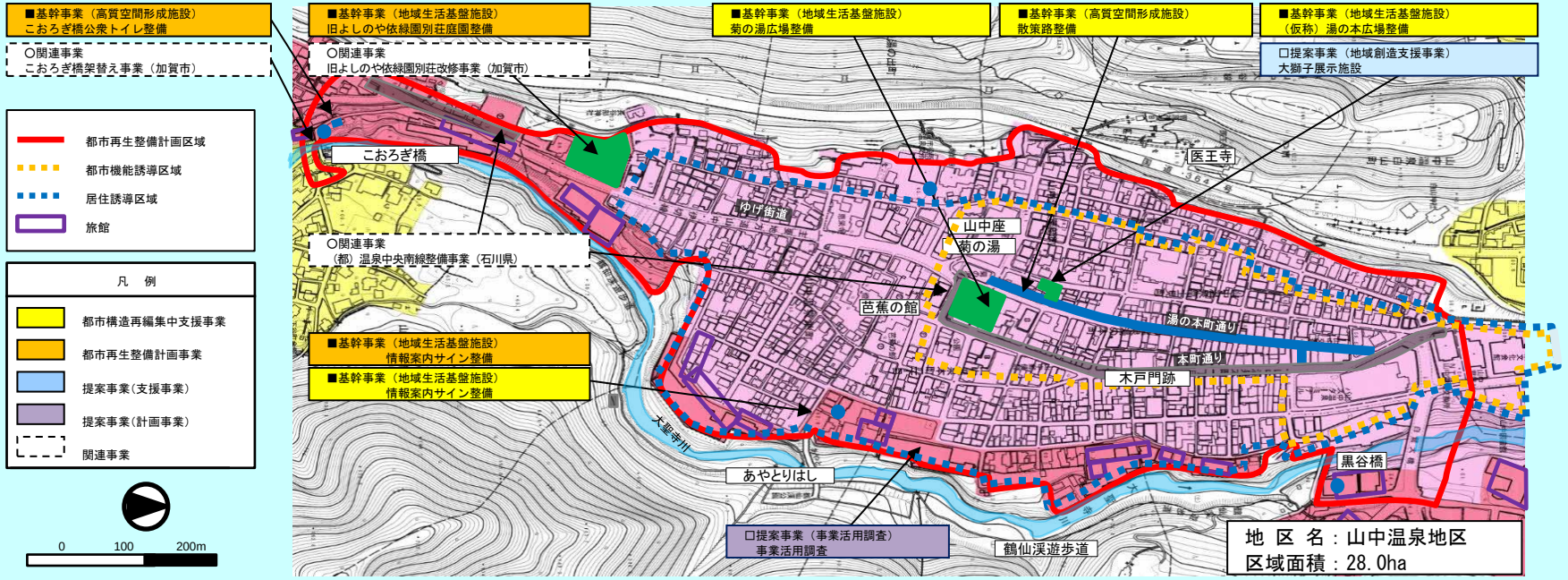
5）実施過程の評価

	実施内容	実施状況		今後の対応方針等
モニタリング	―	都市再生整備計画に記載し、実施できた		―
		都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した		
		都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった		
官民連携による取組	「菊の湯周辺整備計画検討委員会」「（仮称）湯の本広場整備計画検討委員会」「湯の本町景観形成推進協議会」において、事業実施に関する内容を検討した。	都市再生整備計画に記載し、実施できた	●	今後も地域住民、施設利用者の意見を聞き、利用促進を図る。
		都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した		
		都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった		
持続的なまちづくり体制の構築	本事業により整備した施設である「菊の湯広場」や「（仮称）湯の本広場」の管理運営に関する協定を締結し、清掃、見回りのほか、イベント開催等、まちづくり活動を実施した。	都市再生整備計画に記載し、実施できた		地元住民や観光客も参加型の継続的なまちづくり活動を推進する。
		都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した	●	
		都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった		

様式2－2 地区の概要

山中温泉地区（石川県加賀市） 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
【大目標】 温泉情緒と伝統文化にふれる周遊型観光まちづくりの推進 目標1：温泉・歴史・伝統・文化と鶴仙渓の自然を活かした温泉街の魅力づくり 目標2：菊の湯を核としたまちなか周遊拠点の機能強化による賑わいづくり 目標3：ゆげ街道の賑わい延伸とまち歩きが楽しめる散策ネットワークづくり	①山中温泉観光入込客数	単位：人／年	464,379	H29	510,000	R5	287,720	R5
	②商店街店舗減少率（直近5ヶ年）	単位：%／5年	4	H29	2	R5	0	R5
	③湯の本町通り通行者数	単位：人／10h	403	H30	600	R5	472	R5



まちの課題の変化	・温泉街と地域資源を結ぶ歩行者ネットワークとなる散策路およびサインの整備により回遊性が向上し、温泉街の魅力づくりにつながった。 ・温泉街の中心となる総湯菊の湯の広場整備により、まちなか散策の拠点機能の強化が図られた。また、広場を活用したイベント開催等により、周辺商店街・地域住民と観光客の交流が促進し、賑わい創出につながった。 ・湯の本町通りの散策路整備や、情報案内看板及びこおろぎ橋のトイレを整備し、それにあわせて本町通りでは石川県の街路事業が令和2年度より着手された。また、旧よしのや依緑園の庭園や（仮称）湯の本広場、大獅子展示施設といった拠点を整備した事により、温泉街の周遊ルートが確立し、山中温泉全体のまち歩きの促進につながった。
今後のまちづくりの方策 （改善策を含む）	・整備した散策路について、回遊性向上による賑わい創出に向け、ソフト的な対策を推進する（まち歩き案内人やコンシェルジュ等の育成支援、クイズラリー等の実施など、散策路を活用したイベントの開催支援） ・温泉街の中心としての賑わいが持続するよう地元主導によるイベント等での活用を支援する（地元住民と観光客等が交流できる体験型の各種イベント開催支援） ・総湯から山中温泉の周遊を促進できるような温泉情緒ある歴史的景観を保全・継承し情報発信する（総湯を中心とした温泉情緒あふれる街並みの維持保全、二次元コードを活用した魅力発信）

都市再生整備計画　事後評価シート
（添付書類）

（1）成果の評価

添付様式1－①　都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
添付様式1－②　都市再生整備計画に記載した事業の実施状況（完成状況）
添付様式2－①　都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
添付様式2－②　その他の数値指標（当初設定した数値目標以外の指標）により計測される効果発現の計測
添付様式2－参考記述　定量的に表現できない定性的な効果発現状況

（2）実施過程の評価

添付様式3－①　モニタリングの実施状況
添付様式3－②　官民連携による取組みの実施状況
添付様式3－③　持続的なまちづくり体制の構築状況

（3）効果発現要因の整理

添付様式4－①　効果発現要因の整理にかかる検討体制
添付様式4－②　数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
添付様式4－③　数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

（4）今後のまちづくり方策の作成

添付様式5－①　今後のまちづくり方策にかかる検討体制
添付様式5－②　まちの課題の変化
添付様式5－③　今後のまちづくり方策
添付様式5－参考記述　今後のまちづくり方策に関するその他の意見
添付様式5－④　目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
添付様式6　当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
添付様式6－参考記述　今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称（当該地区の次期計画も含む）

（5）事後評価原案の公表

添付様式7　事後評価原案の公表

（6）評価委員会の審議

添付様式8　評価委員会の審議

（7）有識者からの意見聴取

添付様式9　有識者からの意見聴取

（1）成果の評価

添付様式１－①　都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●			
B. 目標を定量化する指標		●			
C. 目標値		●			
D. その他（　　）		●			

添付様式１－②　都市再生整備計画に記載した事業の実施状況（事業の追加・削除を含む）

基幹事業

事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの変更の概要 ※1（事業の削除・追加を含む）	都市再生整備計画に記載したまちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地区再開発事業									
バリアフリー環境整備事業									
優良建築物等整備事業									
住宅市街地総合整備 事業									
街なみ環境整備事業									
住宅地区改良事業等									
都心共同住宅供給事業									
公営住宅等整備									
都市再生住宅等整備									
防災街区整備事業									

※1：事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式１－②　都市再生整備計画に記載した事業の実施状況（事業の追加・削除を含む）

基幹事業

事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの変更の概要 ※1（事業の削除・追加を含む）	都市再生整備計画に記載したまちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
道路									
公園									
河川									
下水道									
駐車場有効利用システム									
地域生活基盤施設	菊の湯広場	140	A=700㎡	64.4	A=822㎡	工事完了に伴う精査による数量変更、事業費の減額。	整備内容の変更であり、広場整備によるまちなか周遊拠点の機能強化に変わりがないため、指標への影響は生じない。	●	
	旧よしのや依緑園別荘庭園	27.3	A=2,300㎡	98.7	A=1,800㎡	工事完了に伴う精査による数量変更、事業費の増額。	整備内容の変更であり、温泉街の回遊性を高めることに変わりがないため、指標への影響は生じない。	●	
	木戸門跡ポケットパーク	15	A=70㎡	－	－	R2.9に計画変更により削除。	散策ネットワークづくりに関連するが、同様の機能をより効果的な場所に整備するため、数値目標は据え置く。	－	
	情報案内サイン	10	N=5箇所	4.9	N=4箇所	工事完了に伴う精査による数量変更、事業費の減額。	既存案内サインも含め検討し、新設案内サインの壁面を縮小したが、ネットワーク機能は保持するため、指標への影響は生じない。	●	
	（仮称）湯の本広場	－	－	37.9	A=438㎡	R2.9に計画変更により追加。	散策ネットワークづくりに関連するが、木戸門跡ポケットパークを事業から削除したため、数値目標は据え置く。	●	
高質空間形成施設	散策路	180	L=630m	201	L=478m	工事完了に伴う精査による数量変更、事業費の増額。	散策ネットワークを再検討し整備路線を縮小したが、ネットワーク機能は保持するため、指標への影響は生じない。	●	
	湯の曲輪公衆トイレ	65	N=1棟	－	－	R2.9に計画変更により削除。	散策ネットワークづくりに関連するが、周辺公共施設に補完する機能があるため、数値目標は据え置く。	－	
	こおろぎ橋公衆トイレ	15	N=1棟	5	N=1棟	工事完了に伴う精査による数量変更、事業費の減額。	整備内容の変更であり、トイレ機能は保持するため、指標への影響は生じない。	●	
高次都市施設									
既存建造物活用事業	旧よしのや依緑園別荘	236	A=600㎡	－	－	R1.7に計画変更により関連事業に変更	関連事業として整備することから、指標への影響は生じない。	－	
都市再生交通拠点整備事業									
・R2年度は、新型コロナウイルスの影響により観光入込客数									
住宅市街地総合整備事業									

※1：事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

提案事業

事業	細項目	当初計画 事業費	当初計画 事業内容	最終変更計画 事業費	最終変更計画 事業内容	当初計画からの変更の概要 ※1（事業の削除・追加を含む）	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況 完成	事後評価時の完成状況 完成見込み
地域創造支援事業	大獅子展示施設	－	－	22.8	A=40.5㎡	追加	散策ネットワークづくりに関連するが、（仮称）湯の本広場と一体に整備することとなるため、数値目標は据え置く。	●	
事業活用調査	事業活用調査	2	事業効果の検証・評価と事業後のまちづくり方針の検討	1.9	事業効果の検証・評価と事業後のまちづくり方針の検討	精算設計の結果による事業費の減額。	指標への影響は生じない。	●	
まちづくり活動推進事業									

※1：事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

（参考）関連事業

事業	細項目	事業箇所名	事業費 当初計画	事業費 最終変更計画	事業期間 当初計画	事業期間 最終変更計画	進捗状況及び所見	備考
こおろぎ橋架替え事業		山中温泉こおろぎ町地内	250	250	H29～H31	H29～R1	令和1年10月完成	
（都）温泉中央南線整備事業		山中温泉こおろぎ町地内	690	690	H26	H26～R1	令和1年9月完成	
（都）温泉中央南線整備事業		山中温泉本町一丁目外1町地内	2,800	2,880		R2～R8	令和9年3月完成（予定）	
旧よしのや依緑園別荘改修事業		山中温泉南町地内	－	504	－	R1～R3	令和5年9月完成	

添付様式２－①　都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指　標		単位	データの計測手法と評価値の求め方（時期、場所、実施主体、対象、具体手法等）	（参考）※1 計画以前の値（ア）	基準年度	従前値（イ）	基準年度	目標値（ウ）	目標年度	数値（エ）			目標達成度※2		1年以内の達成見込みの有無	
															あり	なし
指標1	山中温泉観光入込客数	人／年	・最新のデータである令和6年3月に公表された「令和5年（2024）加賀市観光統計」を用いて、令和5年1月から令和5年12月までの山中温泉の宿泊施設入込客数を把握する。	441,112	H25	464,379	H29	510,000	R5	モニタリング			モニタリング			●
										事後評価	確定／見込み	●	287,720	事後評価	×	
指標2	商店街店舗減少率（直近5ヶ年）	%／5年	・直近5ヶ年の商店街店舗数を地元商工会に問い合わせを行い、減少率を算出する。	2	H24	4	H29	2	R5	モニタリング			モニタリング			
										事後評価	確定／見込み	●	0	事後評価	○	
指標3	湯の本町通り通行者数	人／10h	・湯の本町通りの平日10時間（9:00～19:00）の歩行者数を計測する。	507	H20	403	H30	600	R5	モニタリング			モニタリング			●
										事後評価	確定／見込み	●	472	事後評価	△	

指　標	目標達成度○△×の理由（達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む）	その他特記事項（指標計測上の問題点、課題等）
指標1	・R2年度は、新型コロナウイルスの影響により観光入込客数はコロナ禍前のR1年度は443,271人がコロナ禍のR2年度は259,275人と、約42%減しているが、直近3年間で見ると、R3年度の179,410人からR5年度の287,720人と、約62%増加していることから、自粛されていた観光や移動が動き出し、顕著な伸びが見られる。 ・また、落ち込みを見せ始めたR2年度の259,275人がR5年度には287,720人と、1.11倍の増加となっている。 ・以上を踏まえると、事後評価の時点では数値目標に至っていないため、達成度は×とした。ただし、近年の顕著な伸びおよびインバウンド傾向の回復、さらに北陸新幹線延伸による関東方面との時間短縮効果による今後の増加は見込める。	・今後は、こうした特殊な時期の宿泊施設の受け入れ態勢の変化も考慮し、入込客数について、客室数や受け入れ可能客数を原単位とした計測も検討したい。
指標2	・事業期間内に、商店街店舗数（全体）については、増減はあったものの直近5ヶ年の減少率は0%となり目標は達成できたため、達成度は○とした。 ・また、新たな店舗の出店も見られる。	
指標3	・新型コロナウイルスの影響により落ち込んだ観光客の低迷（コロナ禍前のR1年度：443,271からコロナ禍のR2年度：259,275人は約42%減）により目標値600人は下回るものの、従前値403人は上回っており、今後は北陸新幹線延伸による関東方面との時間短縮効果による観光客増や「菊の湯広場」や「（仮称）湯の本広場」の活用を契機とした周辺商店街の活性化により回遊性が促されれば、通行者数の増加も期待できるため、達成度は△とした。 ・また、令和6年3月16日北陸新幹線加賀温泉駅開業後の4月5日の通行量調査結果（※但し、大学生春休み期間のため特質結果であるとの判断で評価値から除外）では、710人となっており、今後のさらなる増加も期待できる。	

※1　計画以前の値　とは、都市再生整備計画の作成より以前（概ね10年程度前）の値のことをいう。
※2　目標達成度の記入方法
○　：評価値が目標値を上回った場合
△　：評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合
×　：評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

添付様式２－②　その他の数値指標（当初設定した数値目標以外の指標）による効果発現の計測

指　標		単位	データの計測手法と評価値の求め方（時期、場所、実施主体、対象、具体手法等）	（参考）※1 計画以前の値（ア）	基準年度	従前値（イ）	基準年度	数値（ウ）				本指標を取り上げる理由	その他特記事項（指標計測上の問題点、課題等）
その他の数値指標1	簡易宿所数	軒	・最新のデータである令和5年12月に公表された「統計からみた石川県の観光（令和4年）」を用いて、令和4年10月1日現在の山中温泉の簡易宿所数（会社・団体の宿泊所含む）を把握する。			3	H29	モニタリング				・山中温泉地区の整備に伴う効果として、インバウンドや長期滞在（テレワーク、ワーケーションなど）にも対応できるような温泉地の新しい宿泊スタイルを提供するゲストハウス等の簡易宿所が増加しており、指標としてふさわしいと考える	
								事後評価	確定	●	10		
									見込み				
その他の数値指標2								モニタリング					
								事後評価	確定				
									見込み				
その他の数値指標3								モニタリング					
								事後評価	確定				
									見込み				

※1　計画以前の値　とは、都市再生整備計画の作成より以前（概ね10年程度前）の値のことをいう。

添付様式２－参考記述　定量的に表現できない定性的な効果発現状況

道路修景整備を契機に湯の本町商店街のまちづくり活動が活発化した。
・商店振興会主導による湯の本町通り開通（本事業による散策路整備）記念式典の開催。
・商店街の歴史と魅力を発信する「山中温泉想いで写真展」の開催。
・商店振興会や「ボランティアやまなかっ子」の子どもたちによる花の植えによる環境整備。
・空き店舗を活用したインバウンド対応型カフェ（おしゃべりカフェ茶々）取組。

（2）実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式３－①　モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況		実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
－	予定どおり実施した		－	－
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった （理由　　）			
	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった （理由　　）			

添付様式３－②　官民連携による取組の実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況		実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
「菊の湯周辺整備計画検討委員会」の開催	予定どおり実施した	●	【実施回数】 10回 【実施時期】 2016（平成28）～2022（令和4）年	今後も地域住民、施設利用者の意見を聞き、利用促進を図る。
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった （理由　　）			
「（仮称）湯の本広場整備計画検討委員会」の開催	予定どおり実施した		【実施回数】 3回 【実施時期】 2021（令和3）～2022（令和4）年	
	予定はなかったが実施した	●		
	予定したが実施できなかった （理由　　）			
「湯の本町景観形成推進協議会」の開催	予定どおり実施した	●	【実施回数】 7回 【実施時期】 2015（平成27）～2018（平成30）年	
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった （理由　　）			

添付様式３－③　持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況		実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
			ⅰ．体制構築に向けた取組内容	ⅱ．まちづくり組織名：組織の概要	
管理運営協定締結組織によるまちづくり活動の実施	予定どおり実施した		本事業により整備した施設である「菊の湯広場」や「（仮称）湯の本広場」の管理運営に関する協定を締結し、清掃、見回りのほか、イベント開催等、まちづくり活動を実施している。	菊の湯広場：湯の出町商店街振興会 （仮称）湯の本広場：湯の本町商店振興会、大獅子睦会	地元住民や観光客も参加型の継続的なまちづくり活動を推進する。
	予定はなかったが実施した	●			
	予定したが実施できなかった （理由　　）				

（3）効果発現要因の整理

添付様式４－①　効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内の横断的な組織	関係各課主幹職員（都市計画課、文化課、観光商工課等）	令和6年5月	都市計画課

添付様式４－②　数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標2		その他の数値指標1					
指　標　名		商店街店舗減少率		簡易宿所数					
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
基幹事業	菊の湯広場	◎	菊の湯周辺のまちなか周遊拠点としての強化と温泉街の中心部と地域資源を結ぶ散策ネットワークの充実により、周遊型観光まちづくりが推進されたことで、観光需要の回復への期待が高まり、温泉商店街における店舗の減少を抑えることができた。また、新たな店舗の出店も見られる。	◎	菊の湯周辺のまちなか周遊拠点としての強化と温泉街の中心部と地域資源を結ぶ散策ネットワークの充実により、観光需要の回復への期待が高まり、インバウンドや長期滞在（テレワーク、ワーケーションなど）にも対応できるような温泉地の新しい宿泊スタイルを提供するゲストハウス等の簡易宿所が増加した。				
	旧よしのや依緑園別荘庭園	◎		◎					
	情報案内サイン	◎		◎					
	（仮称）湯の本広場	◎		◎					
	散策路	◎		◎					
	こおろぎ橋公衆トイレ	◎		◎					
提案事業	大獅子展示施設	◎		◎					
	事業活用調査	－		－					
関連事業	こおろぎ橋架替え事業	◎		◎					
	（都）温泉中央南線整備事業（山中温泉こおろぎ町地内）	◎		◎					
	（都）温泉中央南線整備事業（山中温泉本町一丁目外1町地内）	◎		◎					
	旧よしのや依緑園別荘改修事業	◎		◎					
今後の活用		北陸新幹線延伸による関東方面との時間短縮効果による観光客増に伴う空き店舗等への出店等も期待できる。		多様化する宿泊ニーズや観光スタイルに対応した温泉地づくりの推進を図る。					

※指標改善への貢献度
◎ ：事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
○ ：事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
△ ：事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
－：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

添付様式４－③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標1			指標3								
指 標 名		山中温泉観光入込客数			湯の本町通り通行者数								
種別	事業名・箇所名	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類
基幹事業	菊の湯広場	△	新型コロナウィルスの影響による入込客数の大幅な減少により目標値には達していないものの、直近3年間で見ると、自粛されていた観光や移動が動き出し顕著な伸びが見られ、今後は増加が見込める。	Ⅲ	△	新型コロナウイルスの影響による観光客の低迷が影響し、目標値には達していないものの、菊の湯広場、(仮称)湯の本広場、湯の本通り、大獅子展示施設等の菊の湯周辺のまちなか周遊拠点の強化・充実は図られており、新幹線開業後は目標以上の通行量も見られた。							
	旧よしのや依緑園別荘庭園	△			－								
	情報案内サイン	△			△								
	(仮称)湯の本広場	△			△								
	散策路	△			△								
	こおろぎ橋公衆トイレ	△			－								
提案事業	大獅子展示施設	△			△								
	事業活用調査	－			－								
関連事業	こおろぎ橋架替え事業	△			－								
	(都)温泉中央南線整備事業(山中温泉こおろぎ町地内)	△			－								
	(都)温泉中央南線整備事業(山中温泉本町一丁目外1町地内)	△			△								
	旧よしのや依緑園別荘改修事業	△			－								

改善の方針（記入は必須）	北陸新幹線延伸による加賀温泉駅開業により、関東方面を中心に、新たな市場を開拓しながら誘客促進を更に強化する。また、海外に向けては、2025 年の「大阪・関西万博」開催によるインバウンド需要も見据えながら、アジアのみならず欧米圏を中心とした世界各国への積極的な誘客に取り組む。	「菊の湯広場」や「(仮称)湯の本広場」の活用した商店街のまちづくり活動が活発化するように促す。また、散策路を活用したイベントの開催支援にも取り組む。		

※目標未達成への影響度
××:事業が効果を発揮せず、
　指標の目標未達成の直接的な原因となった。
×:事業が効果を発揮せず、
　指標の目標未達成の間接的な原因となった。
△:数値目標が達成できなかった中でも、
　ある程度の効果をあげたと思われる。
－:事業と指標の間には、もともと関係がないことが
　明確なので、評価できない。

※要因の分類
分類Ⅰ:内的な要因で、予見が可能な要因。
分類Ⅱ:外的な要因で、予見が可能な要因。
分類Ⅲ:外的な要因で、予見が不可能な要因。
分類Ⅳ:内的な要因で、予見が不可能な要因。

（4）今後のまちづくり方策の作成

添付様式5－①　今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内の横断的な組織	関係各課主幹職員（都市計画課、文化課、観光商工課等）	令和6年5月	都市計画課

添付様式5－②　まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと（課題の改善状況）	残された未解決の課題	事業によって発生した新たな課題
山中漆器や山中節などの伝統文化と鶴仙渓の優れた自然を有しているが、温泉街のまち歩きが楽しめる周遊ルートが充実していないため、地域資源が活かされていない。	温泉街と地域資源を結ぶ歩行者ネットワークとなる散策路およびサインの整備により回遊性が向上し、温泉街の魅力づくりにつながった。	－	
温泉街の中心である菊の湯周辺において、まちなか周遊拠点としての機能が不足している。	温泉街の中心となる総湯菊の湯の広場整備により、まちなか散策の拠点機能の強化が図られた。また、広場を活用したイベント開催等により、周辺商店街・地域住民と観光客の交流が促進し、賑わい創出につながった。	－	
名勝「鶴仙渓」に架かるこおろぎ橋付近から菊の湯までのゆげ街道の散策者は増加傾向にあるが、本町通りや湯の本町通りなどの周辺商店街まで賑わいが広がっていない。	湯の本町通りの散策路整備や、情報案内看板及びこおろぎ橋のトイレを整備し、それにあわせて本町通りでは石川県の街路事業が令和2年度より着手された。また、旧よしのや依緑園の庭園や（仮称）湯の本広場、大獅子展示施設といった拠点を整備した事により、温泉街の周遊ルートが確立し、山中温泉全体のまち歩きの促進につながった。	－	

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式５－③　今後のまちづくり方策

	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
A欄 効果を持続させるため に行う方策	歩行者ネットワークとなる散策路の活用促進	・整備した散策路について、回遊性向上による賑わい創出に向け、ソフト的な対策を推進する。	・まち歩き案内人やコンシェルジュ等の育成支援 ・クイズラリー等の実施など、散策路を活用したイベントの開催支援
	「菊の湯広場」や「(仮称)湯の本広場」の活用促進	・温泉街の中心としての賑わいが持続するよう地元主導によるイベント等での活用を支援する。	・地元住民と観光客等が交流できる体験型の各種イベント開催支援
	山中温泉全体における散策ネットワークの強化・充実	・総湯から山中温泉の周遊を促進できるような温泉情緒ある歴史的景観を保全・継承し情報発信する。	・総湯を中心とした温泉情緒あふれる街並みの維持保全 ・二次元コード等を活用した魅力発信

	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
B欄 改　善　策 ・未達成の目標を達成するための改善策 ・未解決の課題を解消するための改善策 ・新たに発生した課題に対する改善策			

フォローアップ又は次期計画等において実施する改善策を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式５－③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

●	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
●	事業の実施過程の評価(添付様式３)を再確認した。
●	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式４－②)を再確認した。
●	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式４－③)を再確認した。
●	残された課題や新たな課題(添付様式５－②)を再確認した。

添付様式５－参考記述　今後のまちづくり方策に関するその他の意見

・「第３次加賀市観光戦略プラン」(2023年)に基づく取組の推進

添付様式５－④　目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

・フォローアップの要否に関わらず、添付様式２－①、２－②に記載した全ての指標について記入して下さい。
・従前値、目標値、評価値、達成度、１年以内の達成見込みは添付様式２－①、２－②から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、１年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指　標		単位	従前値	年度	目標値	年度	評価値			目標達成度	1年以内の達成見込みの有無		フォローアップ計画 予定時期	計測方法	その他特記事項
指標1	山中温泉観光入込客数	人／年	464,379	H29	510,000	R5	確定	●	287,720	×	あり		－	－	－
							見込み				なし	●			
指標2	商店街店舗減少率（直近5ヶ年）	%／5年	4	H29	2	R5	確定	●	0	○	あり		－	－	－
							見込み				なし				
指標3	湯の本町通り通行者数	人／10h	403	H30	600	R5	確定	●	472	△	あり		－	－	－
							見込み				なし	●			
指標4				H		H	確定				あり				
							見込み				なし				
指標5				H		H	確定				あり				
							見込み				なし				
その他の数値指標1	簡易宿所数	軒	3	H29			確定	●	10				－	－	－
							見込み								
その他の数値指標2				H			確定								
							見込み								
その他の数値指標3				H			確定								
							見込み								

添付様式6　当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点	・指標2商店街店舗減少率（直近5ヶ年）の数値目標設定について、減少率の抑制（減少率4%→2%）としたため達成できた。	・入込増を目標とする一方で、減少率抑制という程度の指標ではなく、せめて減少率ゼロとするなど、指標はプラス目標とすることが望ましい。 ・数値目標については、事業との整合性を考慮し、本来の目的に合う数値とすることが望ましい。 ・外的要因により目標達成が困難な場合は、入込客数だけに着目するのではなく、原単位（客室数や受け入れ可能客数など）とした計測も検討することが望ましい。
	うまく いかなかった点	・指標3湯の本町通行者数について、平日10時間（9:00～19:00）としたため、休日に増加する可能性の高い観光客等、来街者の状況が十分に反映されなかった。また、計測日の天候にも左右される。	
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点	－	・外的要因により目標達成が困難となる可能性が出てきた場合は、適宜目標設定を見直すことが望ましい。
	うまく いかなかった点	・新型コロナウィルスの影響もあり、適正な数値が得られなかった。	
住民参加 ・情報公開	うまくいった点	・菊の湯広場や（仮称）湯の本広場整備に関して、整備計画検討委員会により議論したことにより、広場の管理運営に関する協定の締結にもつながり、今後のイベント開催等、まちづくり活動も期待できる。	・事業に関係する市民等への情報公開を積極的に行い、評価してもらうことが望ましい。
	うまく いかなかった点	・事業に関係する湯の本商店振興会等への案内が不十分であったためか、原案公表について、アクセス数が4件と少なかった。	
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点	・事業実施に伴い事業内容を精査し、規模や事業費等の見直しを行い、効果的に事業の追加・変更ができた。	・社会情勢等を踏まえ、柔軟かつ適切に対応することが望ましい。
	うまく いかなかった点	－	
その他	うまくいった点	－	－
	うまく いかなかった点	－	

添付様式6－参考記述　今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称（当該地区の次期計画も含む）

・今後、事後評価を予定する地区
　本市においては、令和6年度に加賀温泉駅周辺地区において事後評価の実施予定。当地区の事後評価の経験を踏まえて、円滑に事後評価を実施したい。

（5）事後評価原案の公表

添付様式7　事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	市のホームページに掲載	令和6年6月14日～6月28日 （2週間）	令和6年6月14日～6月28日 （2週間）	担当課への電話、FAX、電子メール	都市計画課
広報掲載・回覧・個別配布					
説明会・ワークショップ					
その他	都市計画課窓口による閲覧	令和6年6月14日～6月28日 （2週間）	令和6年6月14日～6月28日 （2週間）		

住民の意見	・アクセス数　4件 ・意見　なし

（6）評価委員会の審議

添付様式8　評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	金沢学院大学　名誉教授　馬場先恵子 金沢大学　准教授　藤生慎	令和6年7月8日（月）	都市計画課	加賀市都市再生整備事業評価委員会設置要綱に基づく	独自に設置
その他の委員	加賀商工会議所　専務理事　西出正光 加賀市区長会連合会　会長　竹田周由 加賀市女性協議会　会長　東本喜美枝				

審議事項※1		委員会の意見
事後評価手続き等にかかる審議	方法書	・方法書に従って事後評価が進められたことが確認された。
	成果の評価	・新型コロナウイルスの影響により、数値目標が達成できなかった指標については、「×」と評価すべきという意見があり、指標1については「×」とすることとした。また、数値目標の設定や事業との整合性を考慮した指標とすることが望ましいという意見については、他地区へ活かすこととした。 ・こうした特殊な時期の宿泊施設の受け入れ態勢の変化も考慮し、入込客数について、客室数や受け入れ可能客数を原単位とした計測も検討されたいという意見があり、他地区へ活かすこととした。
	実施過程の評価	・適正に実施されているが、さらに地元商店街と連携し広場を活用していくことが望ましいという意見があった。
	効果発現要因の整理	・数値目標は達成に至っていないが、様々な取り組みをされており、定性的には評価できるのではないかという意見があった。
	事後評価原案の公表の妥当性	・アクセス数が少なく、事業に関係する市民等への情報公開を積極的に行い、評価してもらうことが望ましいという意見があった。
	その他	・特になし。
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	・事後評価の手続きは妥当であると認められた。
今後のまちづくりについて審議	今後のまちづくり方策の作成	・回遊性の向上について、商店街との連携やサイン情報の充実、ソフト的な取り組みの工夫などが求められるという意見があった。 ・「ししがしらんど」や「加賀依緑園」を活かしていくことやコンシェルジュの育成なども求められるという意見があった。
	フォローアップ	・フォローアップは実施しないことについては了解であるが、観光部局との連携により今後もモニタリングしていくことが望ましいという意見があった。
	その他	・特になし。
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	・本評価委員会の意見を踏まえることで、概ね妥当として確認された。
その他		・特になし。

※1　審議事項の詳細は「まちづくり交付金評価委員会チェックシート」を参考にしてください。

（7）有識者からの意見聴取

添付様式9　有識者からの意見聴取

・この様式は、効果発現要因の整理（添付様式5）、今後のまちづくり方策の検討（添付様式6）、評価委員会の審議（添付様式9）以外の機会に、市町村が任意に有識者の意見聴取を行った場合に記入して下さい。

意見聴取した有識者名・所属等	実施時期	担当部署

有識者の意見	